

絆づくり

教育長 津野 庄一郎



8月15日、5年遅れの「旧関谷中学校還暦同窓会」で、同じ剣道部だった加藤賢一さんから、「七ヶ谷の運動会があるからぜひ来てくれ」と誘われていたこともあり、24日、旧安角小学校グラウンドで行われた「第13回 ふれあい七ヶ谷運動会」(大会会長：伊藤寿和さん)に参加しました。私にとって七ヶ谷(金俣集落)は、祖母の生まれた懐かしいふるさどです。

開会式、「若い力の七ヶ谷」を歌います。そんな歌があるのかとびっくり。さらに、歌詞が印刷されたうちわを見てびっくり。

作詞：平田大六(元村長)、作曲：前田彪(元関小学校長・鮎谷出身)とあります。

私はパン食い魚釣り競争と縄ない競争に加藤村長と出場。縄ないは、わらをねじりながらつなげるのが難しかったです。この他、むかでリレー、玉入れ、大縄とびなど、老若男女問わず選手が参加して、競技も応援も大盛り上がり。圧巻は恐竜が登場する東西対抗リレーです。レース後、ぬいぐるみを脱いだ二人の男性は、汗びっしょりでふらふらでしたが、それでも満面の笑み。会場は温かい拍手に包まれました。閉会式の「福まき」。つかんだ大福餅やお菓子を袋に詰めて喜ぶ子どもたちの笑顔がはじけます。

運動会は、地域住民が一堂に会する貴重な機会であり、一緒に参加して声を掛け合うことで「一体感」が生まれます。また、世代を超えた交流で、お年寄りから子どもまで、家族のような「温かいつながり」を感じることができます。さらに参加した子どもたちには、地域の大人に大切にされているという「自己肯定感」が育まれるでしょう。各集落で運動会をやりましょうというわけではありません。やりたくても子どもも人手も少ないということは承知しています。しかし、地域における絆づくりや活性化の手掛かりを、私は七ヶ谷の皆さんから教えていただいたように思います。

<【写真】上：東西対抗リレーゴール後に、恐竜に駆け寄る子どもたち、下：縄ない競争>